

## ㊦ 古い建物も構造から直します

表面的なお化粧工事は簡単ですが、それでは建物は長持ちしません。当社では、可能な限り建物の骨格からきっちり直すことをお薦めしています。まず、新建材などで、継ぎはぎに改修された部分を全て撤去したうえで、躯体を建ったときの状態に戻します。傾いた柱は真っ直ぐに。下がった壁は元通りに。そして傷んだ柱や梁は根継ぎや入替をします。こうしてきっちり矯正すれば、建具の建て合せや家具の設置も簡単ですし、断熱・気密も求める水準に上げることもできます。地震のときも安心です。目に見えないところですが、引っ越してからではできない部分です。お住まいを長持ちさせるためにも、是非ご検討ください。



梁入替：蟻害のため、強度のない梁は入替。



← 根継ぎ：写真は金輪継ぎ。



揚げ前：腐朽のため沈下した柱を元の状態に。



↑(上下) 基礎補強：工事後は地盤が下がらないように補強。一つ石も根巻き。

↑  
イガミツキ：100年近くかけて傾いた建物をケンドで突いて起こす。



↑  
柱繋ぎ：柱と柱の足元を繋いで地震対策を施す。

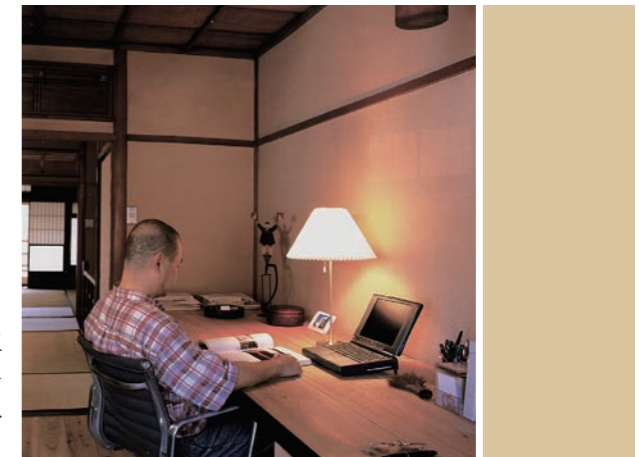
## ㊦ 古材を使った住まいも提供します

古材を使うといっても、特別な事はありません。子供の頃に背比べをした柱を新築の家で使いたいとか、床の間の地板を捨てるのがもったいないから机にして欲しいとか、そういう気持ちを大切にしていきたいと考えています。古材は新材に比べ、1本1本仕口も汚れも違います。しかし、手入れさえすれば、さらに100年使える素材です。当社は再利用することで、古材独特の良さをわかっていただき、環境にやさしい家作りを目指しています。



古材を組み合わせて『建ったときから古い家』を新築。写真に見える梁←柱・建具の半分近くは新材だが、古材と違和感がないように色を合わせる。

→  
地松梁の古材を加工し、作り付けのテーブルに。



↓  
150年は経っている今津の茅葺民家を京都に移築。



↑  
危ないからといって撤去した箱階段を飾り棚として再利用。